

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島「4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗～いろいろなくにをしろう

〈テーマの設定理由〉

地域にも在園児にも外国籍の家庭が多く、子どもたちも日本以外の言葉や文化を身近に感じられる環境の為、興味を持って探究活動が出来ると感じたから。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行った。月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：日本とアメリカの違いを考える

12月：日本とアメリカで有名な物や人を調べたりいろいろな国の国旗を調べたりする

1月：国旗の塗り絵を行う、オリジナル国旗を考えてみる

2月：国旗あてゲームを行う、オリジナル国旗を作ってみる

3月：オリジナル国旗の発表や国名当てゲームを行う

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・絵カード：絵カードを使ってゲームや当てっこをする中でいろいろな国に興味を持つ
- ・絵本や図鑑など：日本と世界の文化の違いについて知る、国旗を知るために使用
（『そんなわけで国旗作っちゃいました！図鑑』『世界の国旗かるた』『地図でバッチリわかる世界の国ぐにおもしろ図鑑』『イラストでサクッと理解 今が見えてくる世界の国図鑑』『地図でよくわかる世界の国大百科』『せかいの図鑑』）
- ・国旗の塗り絵：国旗に興味を持ち、自分で塗ってみる
- ・クレヨン、国旗の枠組みを描いた用紙、模造紙：塗り絵やオリジナル国旗作りに使用

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【3歳児実施分】

11月：日本とアメリカの違いは何か？
12月：国旗ってなんだろう？どんな国旗があるかな？
1月：国旗の特徴はなんだろう？どんな特徴があるかな？
2月：友達の持っている国旗はどんな国旗かな？
3月：みんなで国旗を作ってみようか？

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

11月：絵カードを使って、これは日本、これはアメリカと仕分けるゲームを行った。「ハンバーガーってアメリカなんだね！」違いを理解するというよりもゲームを楽しんでいる様子だった。
12月：国旗の図鑑を見て「こんな国旗があるんだ！」「これ可愛いね」と興味をしめし、国旗を当てるゲームでは当てて喜ぶ様子があった。
1月：覚えた国旗の塗り絵を行ったり、日本、アメリカ、カナダなど特徴のある国旗をもとにオリジナル国旗の絵柄を考えたりした。「お花がいいな」「電車があつたらカッコいいかも」「ポテトが好き」など色々なアイデアが出た。
2月：グループ毎に異なる国旗を持ち、講師がムーン、スター、サークルなど特徴を言い、その模様があつたら指をさすゲームを行った。「ムーンはたくさんあるね！」「これもサークルなのかな？」など国旗の違いを楽しむ様子があった。
3月：グループ毎にオリジナル国旗を作った。描きたい模様をそれぞれ出し合い「ハートたくさん描いたよ！」「僕はやっぱり電車を描きたいな」など言い合いながら描いていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

遊びの中に様々な国旗を取り入れていった。最初はゲームそのものを楽しんでいたが、少しずつ国旗の違いに気付けるようになり、好きな国旗探しへと興味が広がっていった。自分で好きな国旗を描きたいという気持ちにつながっていった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島「4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗～いろいろなくにをしろう

〈テーマの設定理由〉

地域にも在園児にも外国籍の家庭が多く、子どもたちも日本以外の言葉や文化を身近に感じられる環境の為、興味を持って探究活動が出来ると感じたから。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行った。月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：日本とアメリカの違いを考える

12月：日本とアメリカで有名な物や人を調べたりいろいろな国の国旗を調べたりする

1月：国旗の塗り絵を行う、オリジナル国旗を考えてみる

2月：国旗あてゲームを行う、オリジナル国旗を作ってみる

3月：オリジナル国旗の発表や国名当てゲームを行う

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・絵カード：絵カードを使ってゲームや当てっこをする中でいろいろな国に興味を持つ
- ・絵本や図鑑など：日本と世界の文化の違いについて知る、国旗を知るために使用
（『そんなわけで国旗作っちゃいました！図鑑』『世界の国旗かるた』『地図でバッチリわかる世界の国ぐにおもしろ図鑑』『イラストでサクッと理解 今が見えてくる世界の国図鑑』『地図でよくわかる世界の国大百科』『せかいの図鑑』）
- ・国旗の塗り絵：国旗に興味を持ち、自分で塗ってみる
- ・クレヨン、国旗の枠組みを描いた用紙、模造紙：塗り絵やオリジナル国旗作りに使用

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【4歳児実施分】

問いを考える：

11月：日本とアメリカの違いは何か？

12月：国旗ってなんだろう？どんな国旗があるかな？

1月：好きな形や色で自分だけの国旗を描いてみよう

2月：世界の国旗には何が描かれているかな？

3月：国旗を見て、国の名前を当ててみよう

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

11月：絵カードを並べ、手に取ったカードが、日本とアメリカどちらの有名なものかを考えるゲームを行った。カードの絵柄がわからない物でも、国の違いは理解出来ている様子だった。「自由の女神ってなんだろう？」「野球ってアメリカなんだね！」など興味がある様子が見られた。

12月：数種類の国旗に描かれているモチーフや色を教わった。その後、講師のヒントからどこの国かを考えた。

1月：好きな物やモチーフ等を自由に描いて、オリジナルの国旗作りを楽しんだ。室内を見渡して、描きたい物をイメージしながら描く子もいれば、実際にある国旗を再現しようとしている子もいた。「私はたくさん星を描いたよ」「車がかっこいいと思って描いたんだ」「アメリカと同じようにしよう」と「可愛い国旗だね！」など、描いた国旗を友だち同士で見せ合い、絵の説明をし合っていた。

2月：グループに1枚国旗が配られ、その中にあるモチーフや色探しをした。わかりやすい物もあれば、難しいモチーフもあり、わからなくなってくると、友だち同士で推測し合う姿がみられた。

3月：英単語で国旗の中のモチーフを探し当てるゲームをした。どのグループでも、モチーフは見つけられたが、分からない単語があった。子ども達は身振り手振りで友だちに伝えようと試行錯誤をする様子が見られた。講師が、頭文字のヒントを伝えると、そこから覚えた単語を言い合って、答えに結びつけていた。



2枚
ます



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

日本とアメリカの違いから、世界の様々な国へと興味を持てるように声掛けをしていった。簡単な違いなら見分けられるようになり、掲示している国旗のイラストを指さして国の名前を言い合う姿が多く見られるようになっていった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島「4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗～いろいろなくにをしろう

〈テーマの設定理由〉

地域にも在園児にも外国籍の家庭が多く、子どもたちも日本以外の言葉や文化を身近に感じられる環境の為、興味を持って探究活動が出来ると感じたから。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行った。月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：日本とアメリカの違いを考える

12月：日本とアメリカで有名な物や人を調べたりいろいろな国の国旗を調べたりする

1月：国旗の塗り絵を行う、オリジナル国旗を考えてみる

2月：国旗あてゲームを行う、オリジナル国旗を作ってみる

3月：オリジナル国旗の発表や国名当てゲームを行う

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・絵カード：絵カードを使ってゲームや当てっこをする中でいろいろな国に興味を持つ
- ・絵本や図鑑など：日本と世界の文化の違いについて知る、国旗を知るために使用
（『そんなわけで国旗作っちゃいました！図鑑』『世界の国旗かるた』『地図でバッチリわかる世界の国ぐにおもしろ図鑑』『イラストでサクッと理解 今が見えてくる世界の国図鑑』『地図でよくわかる世界の国大百科』『せかいの図鑑』）
- ・国旗の塗り絵：国旗に興味を持ち、自分で塗ってみる
- ・クレヨン、国旗の枠組みを描いた用紙、模造紙：塗り絵やオリジナル国旗作りに使用

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【5歳児実施分】

11月：日本とアメリカの違いは何か？
12月：日本とアメリカの有名な物を探してみよう
1月：自分だけの国旗をデザインしてみよう
2月：世界の国旗には、何が描かれているかな？
3月：みんなで1つの国を考えよう

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

11月：講師の出す絵カードを見て、それが日本のものかアメリカの物かを考えた。好きな食べ物やテレビ等で見たことがある物だと言って、「日本の物」と答えても、実はアメリカが発祥であったり、有名なものであったりすることを知り、驚くとともに、「じゃあ富士山は？」「サンドイッチは？」と話が広がっていった。

12月：グループごとで図鑑を使い、さらに有名な物を調べていった。自分の身近なものや好きな食べ物が、実はアメリカの有名な物だと知ると、驚いた様子で友だちに伝えていた。建物や食べ物だけでなく、文化の違いも知ると、「この国は何て名前なの？」と、講師の配った絵カードを見て他の国にも興味を広げていた。

1月：国旗の色塗りをしていると、好きな色で自由に塗る子と、図鑑を見て忠実に再現する子がいた。塗り始めてしばらくすると、モチーフを描き足す子がでてきた。「新しい国の国旗みたいだね」と話していると、自分で好きな絵を描いて国旗を作りたいとなり、オリジナルの国旗作りが始まった。各国の国旗のモチーフを参考に色を替えて描いたり、好きな食べ物やマークを描いたりして新しい国旗を作っていた。

2月：完成したオリジナルの国旗を発表し合った。友だち同士で照らし合わせて共通点やいい所を伝え合った。その後は各国の国旗の絵カードを見ながら、講師が言ったモチーフがある国はどこを探し当てた。形や色で馴染みのある物や、日本に似ている物は子ども達もよく答えていた。

3月：全員で1つの国旗を作った。どのグループにも今まで覚えてきた国旗をたくさん描いている様子が見られた。完成した国旗をグループ毎で発表すると、見ている子ども達から「スイス。アルゼンチンがある」「日本がたくさんあるね」「日本と同じだけど、色が違う。どこの国かな？」と声が聞こえてきていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

この取り組みが始まって図鑑を見る習慣ができた。そこから色々な国や文化の違いがあることに子ども達が気付いていった。また、日本以外にルーツを持つ友だちの国にも興味が広がったことで、自分のルーツとなる国について自信をもって話す姿が見られるようになった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

おんがくえほんをつくろう

〈テーマの設定理由〉

普段から作ることが好きなクラスなので興味を持って取り組むことができると感じたため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする
11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた絵本の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：絵本の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：絵本の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：絵本の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・クレヨンのくろくん(絵本)
- ・さんびきのこぶた(絵本)
- ・新聞紙
- ・ハンドベル
- ・身近にある玩具や道具など

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【3歳児実施分】

11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた「クレヨンのからくん」の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：「3匹のこぶた」の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：「3匹のこぶた」の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：「3匹のこぶた」の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

11月：耳を澄ませ、音を聴き、聞こえた音を言葉で表現した。どんな音が聞こえたかの講師の問いかけに対し、「びよびよ」、「ビュービュー」など聞こえた音を言葉で表現することが出来ていた。
12月：効果音のついた「クレヨンのからくん」を見たあと、場面に音を聞き、その時に感じた気持ちを発表した。くろくんが1人になった時→「ポロンっていう音がした」「寂しい気持ち」花火の場面→「太鼓の音がした」「バンってなった」「嬉しい」「びっくり」「怖い」手拍子→「楽しい」などと表現していた。
1月：場面に合った音楽に耳を傾け、集中して絵本を見ていた。オオカミが出てきた音→「怖ーい」オオカミが暖炉に落ちた時→「びちびち」「あちの音がした」などと表現していた。講師が積み木を二つ使って音をならし、木の家を作る音を鳴らすと真剣に音を聴いていた。
2月：絵本の場面ごとに、どんな音がつくかなど話し合った。場面に対して「ここはフーっていう音だね」、「火はパチパチって音がいいね」などと手をあげて発表している姿が見られた。
3月：グループに分かれ読み聞かせに合わせて自分たちで決めた音を鳴らした。箱ティッシュやペットボトルなどを使用してグループに分かれ音を鳴らして楽しんでいた。



枚す

5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

全体的に意欲的に参加している姿が見られた。今まであまり自分の意見をみんなの前で発表する機会がなかったのに、最初は緊張した様子で発表をしていた子が、回数を重ねるごとに堂々と発表する姿も見られた。自分の感じたことを自分の言葉に置き換え、発表することが出来るようになったことは大きな成長を感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

おんがくえほんをつくろう

〈テーマの設定理由〉

普段から作ることが好きなクラスなので興味を持って取り組むことができると感じたため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする
11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた絵本の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：絵本の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：絵本の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：絵本の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・クレヨンのくろくん(絵本)
- ・さんびきのこぶた(絵本)
- ・新聞紙
- ・ハンドベル
- ・身近にある玩具や道具など

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【4歳児実施分】

11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた「クレヨンのくろくん」の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：「ブレーメンのおんがくたい」の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：「ブレーメンのおんがくたい」の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：「ブレーメンのおんがくたい」の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

11月：目をつぶり静かな状態で音を聴いた。どんな音が聞こえたのかとの講師の問いかけに対し、「雨の音！」「朝の感じに聴こえた！」と色々なイメージを答えていた。
12月：「クレヨンのくろくん」を音楽と一緒に読み聞かせをしてもらい、終わった後場面ごとにどんな音が流れていて、どんな気持ちになったかを問いかけた。「大きな音、怖い音でびっくりした」「花火の音が聞こえた」「楽しい気持ちになった」などと言う意見が出ていた。
1月：効果音のついた「ブレーメンのおんがくたい」絵本を見た。場面の転換を見ながら表情も深刻に なったり、嬉しそうにしたりと表情を変えていた。どんな気持ちになったか聞かれると「悲しい」「嬉しい」等答える様子もあった。
2月：全員で絵本を読み、「ここは楽しそう、今は悲しいかもね」と音のイメージがつきやすいように物語を進めていった。動物が騒ぐところや、コケッココーなどの所は「ガジャガジャがいい、嬉しい音」と案は出るものの、何を使ったらどんな音が出るのかを見つけないのが難しいようだった。
3月：それぞれの場面を誰が担当するか決め、音も決めていたのでそれを思い出しながら自分の音を机に持ってきて、絵本の内容に合わせて順番に音を鳴らし、音楽絵本を完成させた。猫が追い出されて悲しい場面やみんなが寝ている時には小さな音で音を出せるよう工夫する様子や、講師が文字を読むタイミングに合わせて音を出すなど絵本の内容をよく聞いて音を鳴らしていた



2枚
ます



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

同じ音を聴いても子どもによって受け止め方が違い、それぞれ違う絵が完成している様子が見られた。絵本の場面に合う音を言葉では表現できるが、表現した音を探すのが難しく、どんなものをどうしたら表現に合う音が出るのかを探すのに苦戦する姿見られた。講師や保育士が、玩具を叩くとこんな音が出ると一つの案を伝えると、その方法でしか音を探せなくなる為、もっと様々な音の探し方が出来るよう促すことが必要だったと感じた。グループでの話し合いの機会が今まであまりなかったので、今回の活動を通して、自分一人で考えるのではなく、友だちと協力して答えを導き出だしていく事が分かり、良い経験となった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

おんがくえほんをつくろう

〈テーマの設定理由〉

普段から作ることが好きなクラスなので興味を持って取り組むことができると感じたため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする
11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた絵本の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：絵本の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：絵本の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：絵本の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・ピアノカ
- ・クレヨンのくろくん(絵本)
- ・ブレーメンのおんがくたい(絵本)
- ・あかずきんちゃん(絵本)
- ・新聞紙
- ・ハンドベル
- ・身近にある玩具や道具など

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【5歳児実施分】

11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる
12月：効果音のついた「クレヨンにくろくん」の読み聞かせを聞き、心境を考える
1月：「ブレーメンのおんがくたい」の場面に合う音を玩具や廃材などを使って見つける
2月：「あかずきんちゃん」の場面に合う音を玩具や楽器で表現する
3月：「あかずきんちゃん」の読み聞かせに合わせて園内で見つけた音を鳴らし、音楽絵本を完成させる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

11月：保育園の中で聞こえる音を聴き、絵に描いてみる。3つの音を聞き、音から感じ取った物を絵に表す。「ペロペロキャンディの音」「歩く音」などと聞こえた音を言葉で表現していた。
12月：効果音のついた「クレヨンにくろくん」読み聞かせを聞き、どんな音が聞こえたか発表。「くろくんがかわいそうな音があった」「でも楽しい音もあった」などという意見が出ていた。
1月：「ブレーメンのおんがくたい」の絵本の読み聞かせを聞いた後、ろば、犬、猫、おんどりなどの動物はどんな鳴き声をしているか考える。ろば「ひひーん」犬「わんわんって鳴いてるね」猫「にゃーにゃー」おんどり「こけこっこー」などと表現をしていた。そのほか、ごちそうを食べる音は「あむあむ、もぐもぐ」ねている音は「すやすや」などお話に合わせて音を考えた。
2月：「あかずきんちゃん」の絵本を音楽に合わせて読み聞かせ。場面ごとに担当を決め、効果音を決めた。
3月：「あかずきんちゃん」の場面ごとにグループに分かれ、ピアノや保育室にあるもので場面に合った音を探した。「ドアをたたく音はコップが良いかな」、「おおかみが寝てる音やお腹を切る音はどんな感じだろう」「ぐうぐう」「ちょきちょき」などグループごとに声に出しあって話し合っていた。話し合っ
て決めた音を使って音楽絵本を完成させた。「いろいろな音があって楽しい」と、子どもたちも満足そうにしていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

音を聴いて絵を描くのは初めてだったので苦戦する姿も見られたが、子どもたち同士話し合っ
て絵を描く姿が見られた。グループの中で話し合いを行い、グループごとに様々な意見を出し合っ
て発表する事が出来ていた。

保育室内にある物や玩具だけでなく、ピアノやハンドベルなど楽器を使って絵本の場面に
合う音を探することも出来ていた。その後楽器に興味をもち、自由遊びの中でも様々な
楽器を使用し積極的に音楽を楽しむ姿が見られた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

きみのできるをさがそう

〈テーマの設定理由〉

自分ができることは何かを知ることができるため。不得意なことを知ることで克服するにはどうしたらいいかを考えてチャレンジする力がついたり、自信を持って取り組めたりすることができると思ったため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：バランスを取る、ジャンプをする

12月：どのような遊びを行ったら記録を伸ばせるのかの実践。ジャンプ、バランス、高速足踏みの計測。

1月：鉄棒を使ってバランス、縄跳びを使ってジャンプ

2月：跳び箱を使ってジャンプ

3月：跳び箱、マット、縄跳び、マーカーを使ってジャンプ

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

縄跳び、鉄棒、跳び箱、マット、マーカー、なわとびボール（本体）、なわとびボールなわジャンプ、バランスなどに使用。それぞれをサーキットのように置いて挑戦したり、単体で使用して記録を伸ばすために使用したりした。

なわとびボールとなわとびボールなわは、組み合わせて使用することで、子ども達が自分でジャンプの練習をすることができ、縄をまわす児と跳ぶ児で高さを調節しながらどれくらいまでジャンプできるかを確認していた。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【3歳児実施分】

11月：バランスやジャンプ、走る動きに挑戦してみよう。できるかな？
12月：好きな動きを選んでどれくらいできるか挑戦してみよう。どうやったら記録を伸ばせるかな？
1月：忍者に変身できるかな？
2月：跳び箱を使ったらどうなるかな？
3月：跳び箱を使ったらどうなるかな？

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

11月：2本の縄を飛び越えるために大きくジャンプをする動作では「簡単だよ！」「踏まないように気をつけよう」と言いながら思いっきりジャンプする様子が見られた。バランスでは足を広げて縄をまたいで前に進んだり、縄を踏まないように2本の縄の間を進んだりしていった。「難しい」「おっと」と両手を広げてバランスをとろうとしていた。走る動きではその場で足踏みをしてどれくらい早く足踏みができるかを友達と競いあっていた。

12月：バランスを選んだ子ども達は、片足立ちが何秒できるかに挑戦した。「手を伸ばしたらいいんじゃない？」「先生に手伝ってもらおう！」とグループで話し合っている姿が見られた。バランス感覚をつかむために園庭のタイヤを使ってタイヤ渡りを行うと「落ちないようにするのがいいんだね！」と気づいた子もいた。走る動きを選んだ子ども達は、30秒間で何回駆け足ができるのかを計測した。「早くできるよ！」と高く足をあげたり、小刻みに足を動かしたりして記録を伸ばそうとしていた。「どんな遊びをしたら走るのが早くなるかな？」という講師の問いかけに「鬼ごっこ！！」と答え、全力で走って鬼ごっこを楽しんでいた。ジャンプを選んだ子ども達は線からジャンプしてどこまで飛べるかに挑戦した。「しゃがんでから飛んでみたらどうかな？」という講師の問いかけに「やってみる！」と膝や腕を使って思いっきりジャンプしたら遠くまで跳べて喜ぶ姿があった。「ジャンプできる遊びはあるかな？」という問いかけには「フラフープを跳んだらいいと思う」と子ども達が話し合っていて意見を出していた。

1月：バランスを取るために、子ども達が忍者に変身して講師の声でピタッと止まり、片足立ちをする練習をした。何回も行うことで止まることと片足立ちの動きがスムーズになっていく様子があった。子ども達から「鉄棒がやりたい」と声があがり、鉄棒の上に片足で立つ動作を行った。講師が支え、子どもは腕を広げてバランスを取る動作をした。

2月：大きくジャンプをするために跳び箱とマットを利用した。跳び箱の上に登り、下に置いているマーカーをめがけてジャンプという動作をすると「すごい跳べた！」「見て見て～！できたよ！」と嬉しそうな様子だった。縄に沿って蛙飛びをしたり、マーカーからマーカーまでジャンプをしたりなど跳び箱以外にもジャンプの動作を繰り返して楽しんでいた。

3月：「跳び箱を跳んでみたい」という声があがったので、開脚跳びに挑戦した。講師の補助のもと、開脚飛びができた子ども達は「できたー！」「こんなにジャンプができてすごいね」と喜ぶ様子があった。



真あ



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

普段何気なく行っている動作でも、意識して行うことでもっとやってみたいという意欲につながったり、できることに自信を持ったりする様子が見られた。3歳児にはグループでの話し合いが難しいと感じる場面もあったが、子ども達の声から活動が鉄棒や跳び箱まで広がったことは良かった。今後も自分が自信を持ってできることを探すきっかけ作りを行い、探究を深めていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

きみのできるをさがそう

〈テーマの設定理由〉

自分ができることは何かを知ることができるため。不得意なことを知ることで克服するにはどうしたらいいかを考えてチャレンジする力がついたり、自信を持って取り組めたりすることができると思ったため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：バランスを取る、ジャンプをする

12月：どのような遊びを行ったら記録を伸ばせるのかの実践。ジャンプ、バランス、高速足踏みの計測。

1月：鉄棒を使ってバランス、縄跳びを使ってジャンプ

2月：跳び箱を使ってジャンプ

3月：跳び箱、マット、縄跳び、マーカーを使ってジャンプ

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

縄跳び、鉄棒、跳び箱、マット、マーカー、なわとびポール（本体）、なわとびポールなわジャンプ、バランスなどに使用。それぞれをサーキットのように置いて挑戦したり、単体で使用して記録を伸ばすために使用したりした。

なわとびポールとなわとびポールなわは、組み合わせて使用することで、子ども達が自分でジャンプの練習をすることができ、縄をまわす児と跳ぶ児で高さを調節しながらどれくらいまでジャンプできるかを確認していた。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【4歳児実施分】

11月：バランスやジャンプ、走る動きに挑戦してみよう。できるかな？
12月：好きな動きを選んでどれくらいできるか挑戦してみよう。どうやったら記録を延ばせるかな？
1月：自分が選んだ運動を伸ばすための遊びに取り組みよう
2月：跳び箱を使ったらどうなるかな？どこに手をついたら飛び越えられるかな？
3月：跳び箱を使ったらどうなるかな？どこに手をついたら飛び越えられるかな？

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

11月：バランスやジャンプに挑戦。片足あげや縄を踏まないようにジャンプなどいろいろな動作を行った。縄の幅をどんどん広げ、どうやったら踏まずに跳べるかグループで話し「えいっ！って言いながら跳んだらどう？」「走って跳んだら遠くまでいけるかも」などを実践していた。バランスでは片足ほどの幅の縄の間をはみ出さないように歩く練習。「ゆっくり歩くといけそうだね」「走ると難しい！」と話しながら歩く様子が見られた。

12月：ジャンプ、バランス、高速足踏みをして保育士が記録を取り、自分が一番記録を伸ばしたいものを選んだ。選んだ理由は「人より遠くに跳べて嬉しかったから」「バランスが苦手だから頑張りたい」など様々だった。同じ動作を選んだ子でグループを作り、どうしたら記録が伸ばせるのか、どういう遊びをしたら良いかを話し合った。「鬼ごっこをたくさんしたら走るのが速くなるんじゃない？」「こうしてみたらもっと遠くに跳べそうだね」などたくさん意見を出し合う様子が見られた。

1月：自分が選んだ運動の「できる！」を伸ばすための取組みを行った。バランス、ジャンプ、走るの中で選び、同じ動作を選んだ子ども達同士で話し合いながら取り組んだ。バランスを選んだ子ども達は、鉄棒の上に立ち、講師に支えてもらいながら片足立ちをしてバランスを保った。「先生がいてくれるからできるね」「高いところでバランスを取るのはむずかしい」と難しさを感じた様子。走るを選んだ子ども達は、合図を聞いて走り出す練習を行った。また、鬼ごっこをする時には全力で走ることを意識し「いっぱい走ったら速くなる！」「がんばろう！」と同じ動きを選んだ子同士で声を掛け合っていた。ジャンプを選んだ子ども達は、縄を踏まないように飛び越える練習を行った。「縄の近くから跳ぶといいみたい」と跳び方を工夫する様子があった。

2月：ジャンプをするために跳び箱を使用した。「跳び箱をやってみよう！」「跳んでみよう！」「ジャンプの記録がのびるかな？」「カエルジャンプしたらできそう！」と跳び箱を使うことに期待をしている様子。「跳び箱のどこに手をついたら跳べるかな？近くと遠くどちらだと思う？」の問いかけには「遠く！」「近く！」とそれぞれ答えていた。講師が遠くの方に手をつくとうまく跳ぶことを伝えると、やってみようとする姿があった。

3月：引き続き跳び箱を使ってジャンプへの探究を行った。走って跳ぶ、開脚して跳ぶなど、それぞれ自信を持って行う様子があった。段数が高くなると怖がる子もいたが、どうやったら怖くないかグループで話したり、「足を開けば大丈夫！」と励ましたりする様子が見られた。



2枚
ます



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

色々な動作に対して自分の得意を伸ばしたい子、苦手に挑戦したい子と様々だった。どんな遊びをしたら記録がのびるのかを問いかけた時に思い浮かばない様子があったのでこうやったら記録がのびると思うことは何かと問いかけると色々な意見が出てきた。話し合いからアイデアがでたことが良かった。今後も自分のできるを探せるようにし、自身に繋げていく。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区大島4-21 都営アパート3号棟1階
施設名	江東区大島第五保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

きみのできるをさがそう

〈テーマの設定理由〉

自分ができることは何かを知ることができるため。不得意なことを知ることで克服するにはどうしたらいいかを考えてチャレンジする力がついたり、自信を持って取り組めたりすることができると思ったため。

2 活動スケジュール

令和6年11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：バランスを取る、ジャンプをする

12月：どのような遊びを行ったら記録を伸ばせるのかの実践。ジャンプ、バランス、高速足踏みの計測。

1月：鉄棒を使ってバランス、縄跳びを使ってジャンプ

2月：跳び箱を使ってジャンプ

3月：跳び箱、マット、縄跳び、マーカーを使ってジャンプ

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

縄跳び、鉄棒、跳び箱、マット、マーカー、なわとびポール（本体）、なわとびポールなわジャンプ、バランスなどに使用。それぞれをサーキットのように置いて挑戦したり、単体で使用して記録を伸ばすために使用したりした。

なわとびポールとなわとびポールなわは、組み合わせて使用することで、子ども達が自分でジャンプの練習をすることができ、縄をまわす児と跳ぶ児で高さを調節しながらどれくらいまでジャンプできるかを確認していた。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【5歳児実施分】

11月：バランスやジャンプ、走る動きに挑戦してみよう。できるかな？
12月：好きな動きを選んでどれくらいできるか挑戦してみよう。どうやったら記録を伸ばせるかな？
1月：自分が選んだ運動を伸ばすための遊びに取り組もう
2月：跳び箱を使ったらどうなるかな？どこに手をついたら飛び越えられるかな？
3月：どこに手をついたら飛び越えられるかな？もう一度記録を取ろう。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

11月：バランスやジャンプに挑戦。バランスを取りながら縄と縄の間を通ったり、縄をジャンプで飛び越えたりした。どうやったら遠くまでジャンプができるか、グループで話し合った。「どこまで跳びたい？」「走って跳んだらいけるんじゃない？」などの意見が出て実践した。
12月：グループに分かれてジャンプ（何cm跳べるか）、片足バランス（何秒できるか）、高速足踏み（30秒で何回できるか）を計測した。その後、どの種目を頑張りたいかを話し合い、記録を伸ばすためにはどんな遊びをしたらよいかを話し合った。「腕ふったらジャンプできるかな？」「フラフープ使ってみたらどう？」「ぜったい縄跳びだと思う！」「マラソン頑張ろう！」など様々な意見が出た。
1月：走る、ジャンプ、バランスの中で伸ばしたいものに挑戦した。バランスは、講師に気づかれないように静かに歩き、講師が「誰だ」と振り向いた時に片足をあげてバランスを保つ練習。また、鉄棒の上に片足で立ち、講師が支えてバランスを保つことも行った。ジャンプは両足を揃えて縄を跳び越す練習をした。走るは「よーいどん」の合図を聞いてスタートすることを意識して行った。やってみてどうだったかグループで振り返り、「鉄棒の上は難しかった」「バランスは楽しかった」などの意見が出た。
2月：ジャンプをするために跳び箱を使用した。「どこに手をついたらよいか？」の問いかけには「遠くがいいと思う！」「近くの方が怖くないかも」などの意見が出た。
3月：引き続き跳び箱を使用してジャンプに挑戦した。開脚跳びができる子が増え、自身に繋がった様子が見られた。グループ毎に縄跳びを利用してジャンプの練習を行ったり、もう一度記録を取ったりした。「前よりも高く跳べた！」「バランスできてる！」とできたことをグループで喜び合う様子が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

色々な動作を意識して行うことで、記録が伸びていくことを実感した。子ども達の話し合いにおいては、自分の意見だけではなく、他児の意見を聞いて「それいいね!」と認め合いながらすすめていく様子があったので、子ども達の成長を感じることもできた。飛び箱では怖がってできない子がいたが、取り組んでいく中で「できるよ」「がんばって」と他児からの応援や「こうやったらできるよ」「大丈夫だよ」などの声掛けがあり、最後は笑顔で跳ぶことができた。探究した結果とは少し異なるかもしれないが、「できる」自信に繋げることができたことがとても良かった。